

Engine Complete KIT : DOHC 4VALVE

(2 S M S)

セカンダリーキックスターター
1 2 4 c c (5 4 × 5 4)
T A F 5 速 (スーパーツーリング)
スペシャルクラッチ (湿式)

商品番号 : 0 1 — 0 0 — 9 3 1 7

適応搭載車両

モンキー / ゴリラ : Z 5 0 J — 2 0 0 0 0 0 1 ~
: A B 2 7 — 1 0 0 0 0 0 1 ~ 1 8 9 9 9 9 9

この度は、弊社コンプリートエンジンをお買上げ頂き有難うございます。

このエンジンは、長年に渡る商品開発、製造のノウハウを駆使し、設計、製造開発したエンジンコンプリートシリーズです。

軽量、高出力で充分ご満足して頂けるものと思います。

取り付け前には、キット内容をよくご確認頂き、この取扱説明書を熟読になり、ご理解の上ご使用下さいます様お願い致します。

おことわり

- 1 . イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。
- 2 . この取扱説明書は、基本的な技術や知識を持った方を対象に記載しております。技能、知識の無い方や工具等が不十分な方は作業を行わず、必ず技術的信用のある専門店へご依頼下さい。
技能不足、知識不足等が整備上のトラブル、部品破損等の原因となる場合があります。
- 3 . このキットは、クローズド競技専用として開発したキットです。一般公道では使用しないで下さい。一般公道で使用した場合、違反となり運転者が罰せられます。
- 4 . このキットは、上記に記載している車両のみに対応しております。その他の車両には搭載出来ませんのでご了承下さい。
- 5 . このエンジンキットは、オリジナルのエンジンと比較して全高（シリンダー部）が長くなっております。その為搭載車両がオリジナル状態（メーカー出荷時）では、各部干渉によりエンジン搭載が出来ません。
フレーム部品の改造が必要となります。予めご了承下さい。
- 6 . 使用に必要なパーツは、別途ご購入して頂く必要があります。
- 7 . 性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- 8 . クレームについては競技専用パーツの為、一切お受け致しかねます。但し、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買上げ後 1 ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用された場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- 9 . この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

ご使用前に必ずお読み下さい

- 取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- 点検、整備を行う場合は、必ず説明書の要領に従い、正しく作業を行って下さい。
- 適応搭載車両の純正サービスマニュアルを必ず準備し、指示要領に従って作業を行って下さい。尚、この取扱説明書及び、純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った人を対象としております。作業経験の無い方、工具等が不十分な方は、技術的信用のおける専門店へご依頼下さい。
- 当製品を使用して、当製品以外の部品に不具合が発生しても、部品の保証は一切負いかねます。ご了承下さい。
- 点火系部品は、他メーカー製品との組合せはご遠慮下さい。トラブルの原因になります。
- このキットは、必要パーツは推奨パーツのみ対応しております。必ず推奨パーツをご使用下さい。
- 燃料、エンジンオイル等は推奨品をご使用下さい。
- アイドリングは長くても信号待ち程度にとどめ、長時間のアイドリングは避けて下さい。無風状態のアイドリングはエンジン温度上昇の原因になり、エンジンオイル循環機能の低下を招く場合があります。

注意

この表示の内容を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- ・このパーツはクロード競技用として開発した商品ですので、一般公道では使用しないで下さい。(道路運送車両法の保安基準を充たさない車両で公道を走行すると、違反となり運転者が罰せられます。)
- ・作業等を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。35℃以下。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、十分注意して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。(部品の摩耗や損傷等で、エンジントラブルの原因となります。)

警告

この表示の内容を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・技術、知識の無い方は、作業を行わないで下さい。(技術、知識不足による作業ミスで、部品破損により、事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ、安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・ガソリンは非常に引火しやすい為、一切の火気を避け、燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。(火災の原因となる恐れがあります。)
- ・規定トルクは必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。)
- ・指示部品以外の部品の使用は、一切行わないで下さい。(部品破損により、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け、損傷部品の交換を行ってください。(そのまま使用すると、部品破損により、事故につながる恐れがあります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・走行前は必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みの有無を確認し、緩みがあれば規定トルクで増し締めを行ってください。(部品脱落等で、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備は、サービスマニュアルの点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。(不適切な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・燃料は必ずハイオクタン価ガソリンを使用して下さい。(ノッキング等のトラブルで事故につながる恐れがあります。)
- ・運転者は、乗車時必ずヘルメット、保護具及び保護性の高い服を着用して下さい。(ヘルメットを正しく装着していないと、万一の事故の際、死亡又は重大な傷害に至る恐れがあります。)

～ 特 徴 ～

● DOHC 4バルブの採用

インテークバルブ、エキゾーストバルブ共に2本を備える事により、バルブカーテン面積を大きく取り吸排気を向上させ、カムシャフトをIN側、EX側1本づつ備えるDOHC化を採用し、ダイレクトリフターの使用によるコンパクト、軽量化を実現しております。

カムシャフト駆動方式もセミギアトレイン方式とし、バルブタイミングが変更出来る様、アジャストタイプのカムギアを採用しております。

2バルブSOHCヘッドでは、味わえないフィーリングと高出力を体感して頂けます。

● メッキシリンダーの採用

アルミ一体成形ボアを採用し、セラミックコンボジットメッキ処理を行なう事で高い耐摩耗性とフリクションロスの低減を可能としました。

高い気密性と耐久性も兼ね備えております。

● オイルジェットの採用

クランクケースオイルライン部からピストン裏側にオイルをジェット噴射させ、冷却を行なうオイルジェット構造を採用しております。

● 湿式多板クラッチの採用

ハイパワーに対応出来る様、フリクションディスク5板の多板クラッチ本体をトランスミッションメインシャフト側に取り付け、クランクシャフトの耐久性とスロットルレスポンスを向上させています。又、クラッチカバーには信頼性の高いカートリッジ製オイルフィルターを採用し、オイルクーラーをクラッチカバーから取り出すラインを設け、オプション設定でサーモスタットの装着が可能な構造となっております。

● クロスレシオミッションの採用

トランスミッションをクロスレシオにする事により、シフトアップ、シフトダウン、及びコーナーリングをスムーズ且つエンジンパワーを有効に使う事が出来る様、設定しています。

● 軽量アウターローターACGの採用

SS—アウターローターを標準装備しております。ローター本体を小型化し、536gを実現、ピックアップポジションもこのエンジン専用に見直し、最適な点火タイミングを設定し、高いピックアップ性を実現しております。

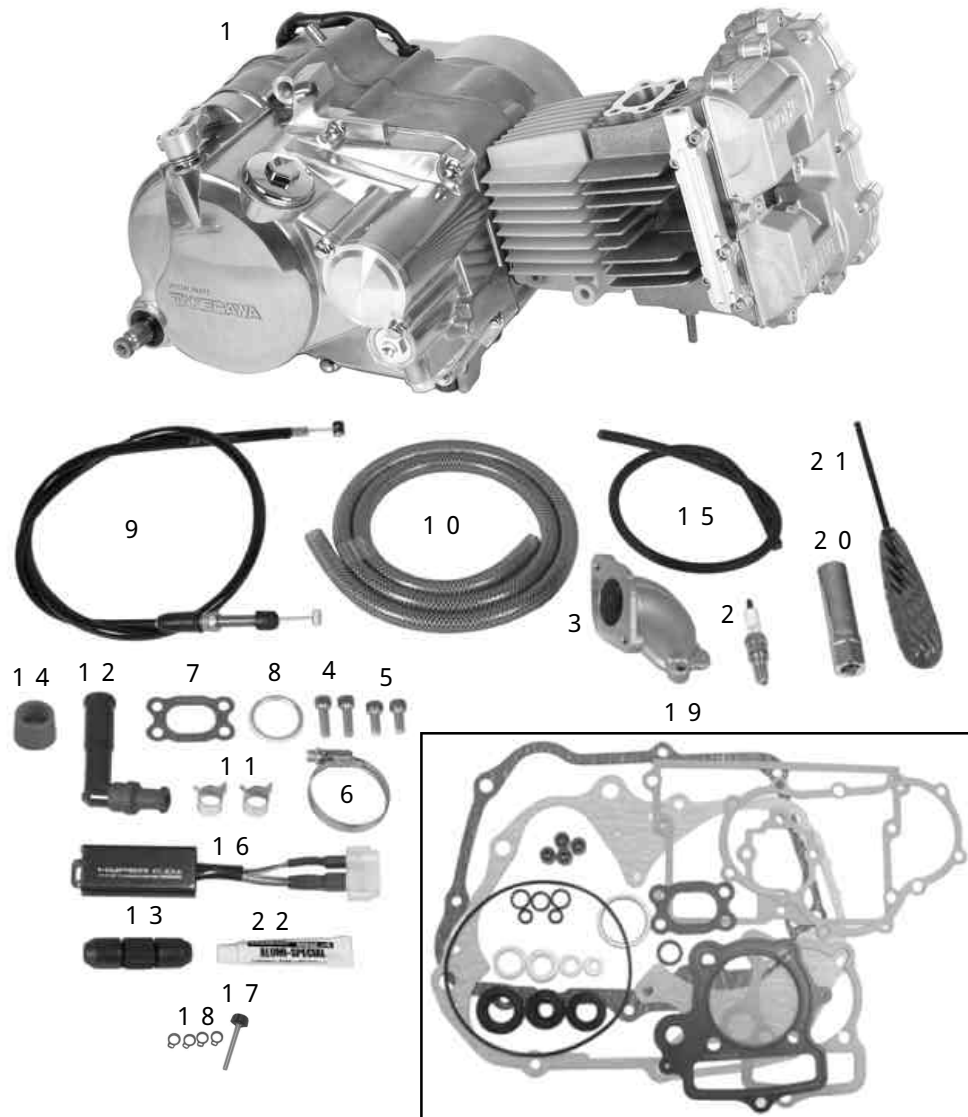
● オートデコンプレッションカムの採用

カムシャフトにオートデコンプ装置により、一時的に圧縮を抜くことにより、高圧縮エンジンでも容易にキックスターターアームを踏み抜き易くしております。

● 鍛造ピストンの採用

ピストン素材を鍛造製とし、ピストン本体の強度を高め、専用形状を採用する事で軽量に仕上げており、耐久性を向上させております。

商 品 内 容



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	エンジン COMP.	1		
2	スパークプラグ ER8EH	1	NGK—ER8EH	1
3	インテークマニホールド	1		1
4	ソケットキャップスクリュー 6×20	2		2
5	ソケットキャップスクリュー 6×15	2	06171—D4H—T00	2
6	ノールマトローバンド	1		1
7	インレットパイプガasket	1		1
8	エキゾーストパイプガasket	1	00—01—0064	2
9	クラッチケーブル COMP. 850mm	1	00—02—0133	1
10	ブレードホース 8×1m	1		1
11	ホースクランプ 13.1	2	00—07—0070	2
12	スパークプラグキャップ COMP.	1	00—01—1013	1
13	プラグコードジョイント	1	00—01—1012	1
14	プラグキャップラバー	1	30701—D4H—T00	1
15	ハイテンションコード 500mm	1	00—01—1043	1
16	ハイパーC.D.I.	1	05—03—0003	1
17	ツマミネジ	1	00—01—0254	2
18	スナップリング 6mm	4	00—01—0255	5
19	ガasketセット	1	06111—D4H—TN0	1
20	プラグソケット 13mm	1	00—00—0247	1
21	ボールポイントドライバー 4mm	1		
22	アルミスベシャル 5g	1	00—01—0001	1

リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませ
様お願い致します。

主要諸元表

種類	ガソリン・4サイクル
総排気量	1 2 3.7 c c
シリンダー数及び配置	単気筒・横置
冷却方法	空冷
バルブ機構	D O H C ・チェーン—ギア駆動
燃焼室形状	ペントルーフ形
内径×行程	5 4 m m × 5 4 m m
圧縮比	1 2.6 : 1
カムシャフト種類	インテーク 2 5 エキゾースト 3 0 D
バルブタイミング	
吸気 開	上死点前 2 0 ° (1 m m リフト時)
閉	下死点後 5 0 ° (1 m m リフト時)
排気 開	下死点前 6 0 ° (1 m m リフト時)
閉	上死点後 2 0 ° (1 m m リフト時)
潤滑方法	圧送飛沫式併用
ポンプ形式	トロコイド式
容量	0.8 L
使用燃料	ハイオクタン価ガソリン (リサーチ法 : 9 7 オクタン価以上)
点火方法	C . D . I . 点火
スパークプラグ	N G K — E R 8 E H
始動方法	キックスターター式
動力伝達	
クラッチ	湿式多板
操作方法	機械式
トランスミッション	スーパーターリング 5 速
タイプ	常時噛合・5 段リターン式
ギア比	
1 速	2.3 5 7 (3 3 / 1 4)
2 速	1.6 1 1 (2 9 / 1 8)
3 速	1.1 9 0 (2 5 / 2 1)
4 速	0.9 5 8 (2 3 / 2 4)
5 速	0.8 0 7 (2 1 / 2 6)
後輪駆動機構	
タイプ	チェーン駆動

点検と調整

項目	点検時期	参照頁
スパークプラグの掃除・点検	2 0 0 k m 毎	P—C 1
バルブクリアランスの点検	5 0 0 ~ 6 0 0 k m 毎	
エンジンオイルの交換	1 0 0 0 ~ 2 0 0 0 k m 毎	P—C 1
キャブレターの調整・点検	毎回	各キャブレターに伴う
オイルフィルターの交換	1 5 0 0 ~ 2 0 0 0 k m 毎	P—C 2
クラッチケーブルの調整	2 5 0 k m 毎	P—C 2
クラッチフリクションディスクの点検	1 0 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照
ピストン及びピストンリングの点検	1 0 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照
ピストンピンの点検	2 0 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照
クランクシャフトの点検	1 0 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照
シリンダーヘッド・シリンダーの点検	2 0 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照
クランクケースの点検	2 5 0 0 k m 毎	サービスマニュアル参照

表の点検時期は、あくまでも目安であり、使用状況や状態により判断して下さい。
点検時期より早い段階での点検をお勧めします。

～ 使用上の注意 ～

搭載車両の仕様について

このエンジンキットは、オリジナルと比較して全高（シリンダー部）が長くなっております。これにより搭載車両がオリジナル状態（メーカー出荷時）では各部干渉によりエンジン搭載が出来ません。フレーム部品の改造が必要となります。予めご了承下さい。

モンキー / ゴリラについては、下記の変更部パーツと P—D 1 ～ D 4 のオプションパーツを参照し、搭載可能であるかを確認し変更が必要な場合、仕様変更を行って下さい。

適応仕様データ表		
フロントフォーク	ノーマルフォーク（不可）× 仕様変更	弊社製φ30正立フロントフォーク （P—D 4 参照）
タイヤ	—————→	パワーアップに伴いインチアップ（10インチ）を推奨
トップブリッジ/ ステアリングステム	ノーマルフォーク（不可）× 仕様変更	弊社製トップブリッジ&ステムキット又はフロントフォークキット アライニングオフセット指定（P—D 4 参照）
リアフォーク	—————→	フロントフォーク、タイヤサイズに合わせ変更を推奨 （P—D 4 参照）
オイルクーラー	—————→	発熱量アップに伴い使用を推奨 （P—D 3 参照）
ドライブ/ ドリブンスプロケット	ノーマル（不可）× 仕様変更	ファイナルギア比 2.188～2.063（10インチ時目安） （P—D 2 参照）
オイルキャッチタンク	取り付け必要	レースレギュレーションに合わせ取り付け （P—D 4 参照）
エキゾーストマフラー	ノーマルマフラー（不可）× 専用マフラー必要	エキゾーストポート位置変更の為、専用品必要 （P—D 4 参照）

使用燃料について

燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

オイルクーラーについて

このキットを取り付けると出力アップに伴い、エンジン発熱量が増大します。エンジンに長時間の負荷を与える走行には、油温を適切に保ち、高温時に発生する油膜切れ等を防止するオイルクーラーキットの装着をお勧めします。

- ブリーザーキャップを使用する場合は、必ずオイルキャッチタンクとの併用をお願い致します。
又、ブローバイガスも排気量増大に伴い多くなっております。大きい容量のオイルキャッチタンクの使用をお勧めします。（500cc以上）

使用回転数について

使用限界回転数は使用されるカムシャフトや排気量等で異なります。エンジン回転計を取り付け、必ず最大出力回転数以下でご使用下さい。

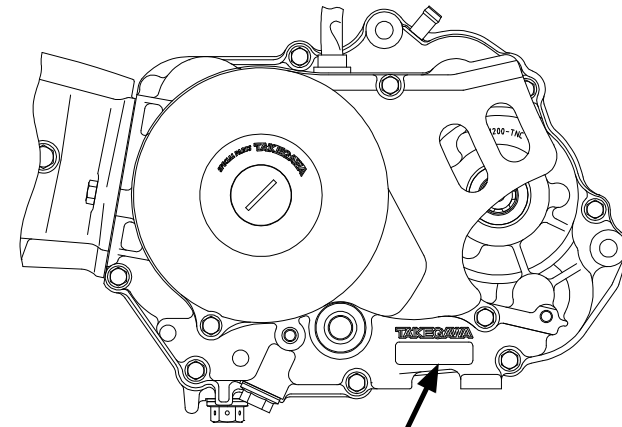
124cc インテーク : 25カム

エキゾースト : 30カム

使用回転数 : 12000rpm以下

特に、空ぶかし時や1速ギア、2速ギアでの急加速時は使用限界回転数に入りやすいのでご注意ください。使用限界回転数以上でご使用されますと、エンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を及ぼすだけでなく、最悪の場合はエンジンを壊してしまう恐れがあります。

- 本エンジンには、管理NoとしてエンジンNo（シリアル）を打刻しております。
リペアパーツ発注時やお問い合わせ時、このエンジンNoが必要となります。



エンジンNo打刻位置
2SMS—00001～

株式会社 SPECIAL PARTS 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059
お問い合わせ専用ダイヤル 0721-25-8857
URL <http://www.takegawa.co.jp>

～取 り 付 け 要 領～

作業を行なう前に、必ず搭載する車両のサービスマニュアル及び必要な工具を用意します。

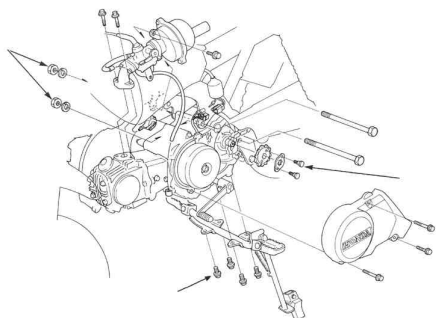
使用に必要なオプションパーツを用意します。別紙参照

この取り付け要領は、当エンジンが搭載出来る車両を前提にしております。予めご了承下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

● エンジン取り外し

- 搭載する車両のサービスマニュアルを参照し、エンジン及びキャブレターを車両から取り外します。



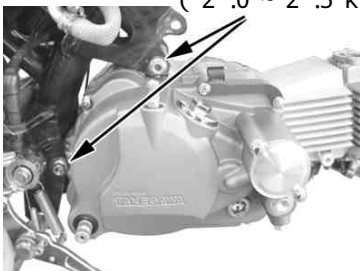
● エンジン取り付け

- 搭載車両のサービスマニュアルを参照し、エンジンコンプリートをフレームに搭載します。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

△ 警告：必ずサービスマニュアルの指示に従う事。

20 ~ 25 N・m
(2.0 ~ 2.5 kgf・m)



△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

T = 20 ~ 25 N・m
(2.0 ~ 2.5 kgf・m)

● A C G 接続

- 搭載車両のサービスマニュアルを参照し、C D I を取り外し、キット同梱の C D I を取り付けます。
- エンジン C O M P . からの配線と、車両側の配線のカブラを接続します。

完全な競技仕様でメインハーネスを製作されている場合は、別紙のハーネス接続図を参照して配線を接続して下さい。

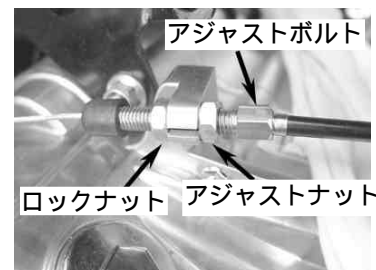
(P—B 6 参照)

● クラッチケーブルの取り付け

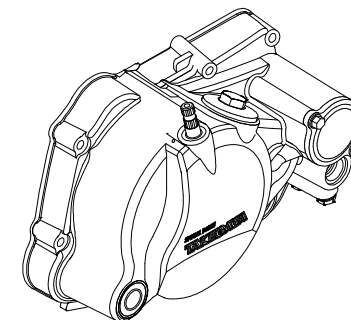
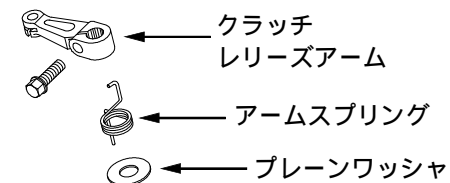
- クラッチレバーにクラッチケーブルを取り付け、ケーブルに無理が掛からないようにクラッチケーブルレシーバーまで取り回します。



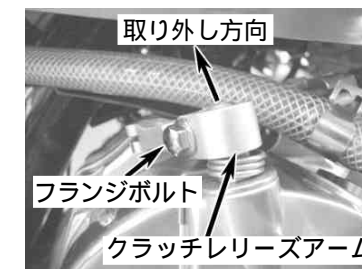
- クラッチケーブルのアジャスター部をケーブルレシーバーに取り付けます。



- クラッチリリースピニオンを時計回りに止まる位置まで回転させリリースピニオンにプレーンワッシャを入れます。



- クラッチリリースアーム割り締め部の切り欠きが、後方に向くようにケーブルエンドをクラッチリリースアームにリリースアームスプリングをセットしインナーケーブルを引っ張った状態でリリースピニオンに差し込み、アームスプリングを R . クランクケースカバーに差し込みます。



- レリーズアームにフランジボルトを取り付け、アームを押し込んだ状態でボルトを指定トルクで締め付けます。

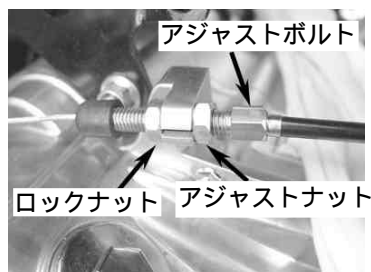
△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

- クラッチケーブルのアジャスト部でクラッチの遊びを調整し、ロックナットを指定トルクで締め付けて、ゴムキャップをそれぞれ被せます。

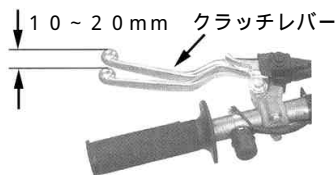
△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



クラッチの遊び

：クラッチレバー先端で 10 ~ 20 mm



● 点検

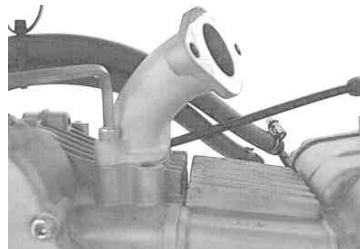
- エンジン停止状態でトランスミッションを 1 速にシフトし、クラッチレバーを握った状態で車両を動かした際、リアホイールが回転し、クラッチレバーを放した状態でリアホイールが回転しない事を確認して下さい。

● キャブレターの取り付け

- スロットルケーブルをフレームに通します。
- スロットルケーブルをロアスロットルハウジングに通し、スロットルパイプにインナーケーブルを接続します。スロットルハウジングをハンドルに取り付けます。
- スロットルパイプ揺動部及びケーブルエンド部、パイプのケーブル巻き取り部にグリスを塗布して下さい。
- シリンダーヘッドとインレットパイプの間にインレットパイプガスケットを挟み、6 × 20 のソケットキャップスクリューを用いて取り付け締め付けます。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

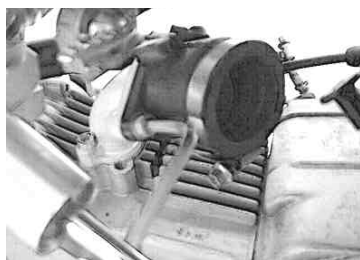
$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- インレットパイプに使用するキャブレターのインシュレーターをキット内のソケットキャップスクリュー 2 本を用いて締付けます。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

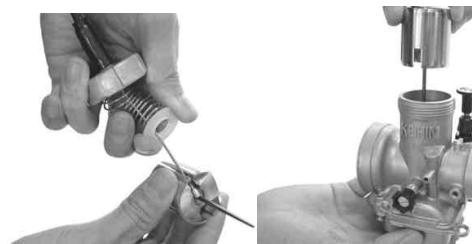
$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



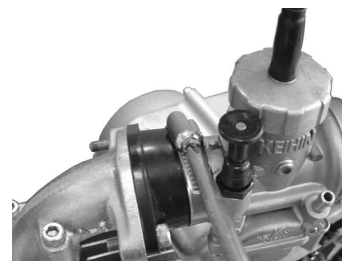
P E 2 8 の場合

搭載車種モンキー時のみ
ゴリラは取り付け不可

- フロートチャンバーを外し、メインジェットを取り外します。付属のメインジェット 110 番とスロージェット 35 番を取り付けフロートチャンバーを取り付けます。
- キットのキャブレターのトップカバーを外して、スプリング、スロットルバルブを抜き取ります。スロットルケーブルのインナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを締めながらスロットルバルブに取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャブレターに取り付けます。



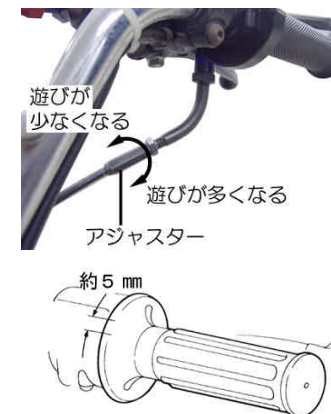
- キャブレターをインシュレーターに差し込み、クランプバンドで締め付けます。



- エアフィルターを取り付け、バンドを締め付けて固定する。

- スロットルグリップ部で 5 mm 程度の遊びが出来るようにスロットルケーブルのアジャスターを調整します。

使用するスロットルの指示に従って調整して下さい。

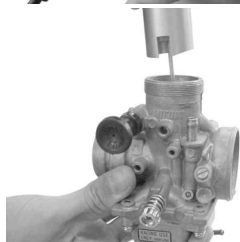


スロットルを数回スナップさせ引っかかりやスロットルバルブの全開状態を確認します。ステアリングを左右いっぱいに切った状態でもスロットルに遊びがあることを確認して下さい。

- フューエルチューブを差し込み、チューブクリップで止めます。フューエルコックを開き各部からのガソリン漏れの有無を確認します。

VM26の場合

- キャブレターのトップカバーを外して、スプリング、スロットルバルブを抜き取ります。スロットルケーブルのインナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを縮めながらスロットルバルブに取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャブレターに取り付けます。

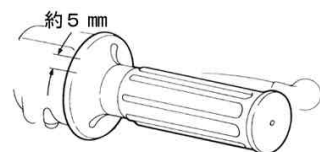


- キャブレターをインシュレーターに差し込み、クランプバンドで締め付けます。



- エアフィルターを取り付け、バンドを締め付けて固定する。

- スロットルグリップ部で5mm程度の遊びが出来るようにスロットルケーブルのアジャスターを調整します。使用するスロットルの指示に従って調整して下さい。



スロットルを数回スナップさせ引っかかりやスロットルバルブの全開状態を確認します。ステアリングを左右いっぱいに切った状態でもスロットルに遊びがあることを確認して下さい。
ゴリラ（全車種）に取り付ける場合、ここで元のフューエルコックとオプションのフューエルコックを交換します。フューエルコックの方向を決めて、ナット部分をフューエルタンクに締め付けて下さい。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
 $T = 5 \sim 6 \text{ N} \cdot \text{m} (0.5 \sim 0.6 \text{ kgf} \cdot \text{m})$



- フューエルチューブを差し込み、チューブクリップで止めます。フューエルコックを開き各部からのガソリン漏れの有無を確認します。（コックを開いたまま長時間放置しないで下さい。）

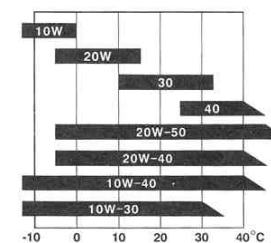
- クランクケースからのブローバイガスの処理は各自で行ないます。（レース、レギュレーション等でブローバイガスの処理が定められているケースがあります。）
- キャブレターにブローバイガスを返却する場合、エアフィルターユニオンにブローバイホースを返却して対応して下さい。（P-D1 オプションパーツ表参照）

エンジンオイル

- オイル吸入口のキャップを取り外し、エンジンオイルを800cc注入します。



- エンジンオイルの粘度は、図を参考に使用する地域、外気温に適した粘度のオイルを使用して下さい。



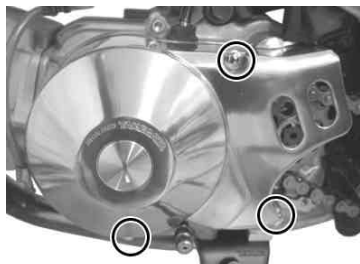
- オイル吸入口のキャップを取り付けます。
- オプションのキックスターターアームを取り付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。



●ドライブチェーン取り付け

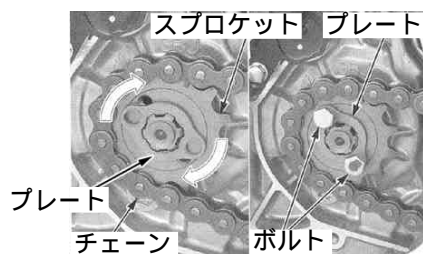
- ジェネレーターカバーを取り付けている3本のスクリューを外し、ジェネレーターカバーを取り外します。



- ドライブスプロケットを取り付けます。

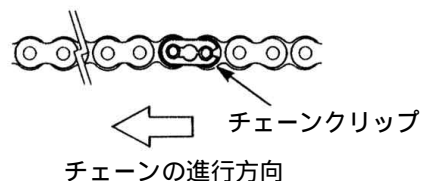
△注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 12 \sim 15 \text{ N} \cdot \text{m} \quad (1.2 \sim 1.5 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- 純正サービスマニュアル又は、使用するリアフォークの取り扱い説明書に従いドライブチェーンを取り付けます。

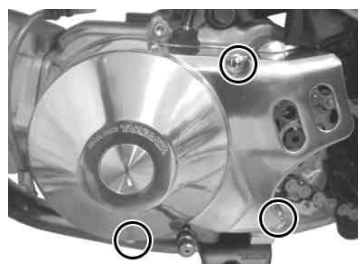
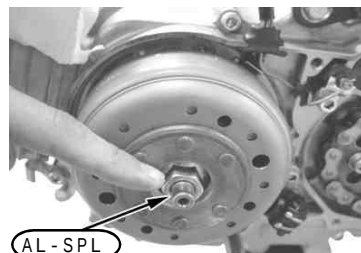
△注意：必ずサービスマニュアルの指示に従う事。



- クランクシャフトのベアリング支持部にアルミスペシャルを塗布し、先端をジェネレーターカバーベアリング部に差し込みジェネレーターカバーを取り付け各スクリューを規定トルクまで締め付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} \quad (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- 使用するチェンジベダルを取り付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

●マフラーの取り付け

- エキゾーストポート部に、キット同梱のエキゾーストパイプガスケットを取り付けます。



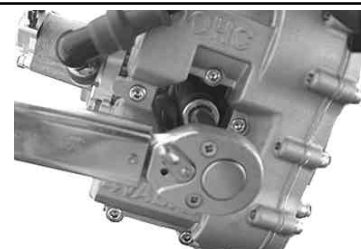
- 使用するエキゾーストマフラーの取り付け指示に従いエキゾーストマフラーを取り付けます。

●エンジン始動

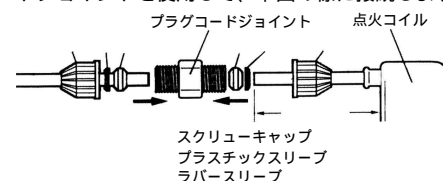
- イグニッションキー、ガスコックがOFFになっていることを確認します。
- しばらくキックをし、エンジン各部にエンジンオイルを行きわたらせます。
- スパークプラグを取り付けます。プラグのネジ部に少量のアルミスペシャルを塗布し、締め付けます。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 8 \sim 10 \text{ N} \cdot \text{m} \quad (0.8 \sim 1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- イグニッションコイルのケーブルの延長をします。コードをイグニッションコイルから約10cmの位置で切断します。キット内ハイテンションコードを、取り回しを決めた寸法で切断し、キット内のプラグコードジョイントを使用して、下図の様に接続します。



- キット内のプラグキャップを延長したハイテンションコードに取り付け、プラグキャップラバーをキット付属品に交換します。

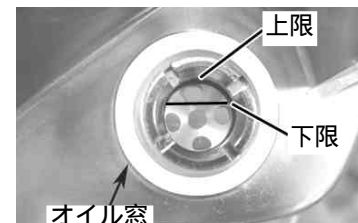


- プラグキャップをスパークプラグに取り付けます。
- エンジンに付着した汚れをよく拭き取ります。

- ガソリンコック、イグニッションキーをONにし、チョークレバーを引きエンジンを始動させます。チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転を行いチョークレバーを完全に戻します。エンジン暖気後アイドル回転数が高い場合や、アイドル回転数が低い場合は、スロットルストップスクリューで調整します。

△警告：必ず換気の良い場所で行う事。

- 一旦エンジンを止めます。数分待ち車両を水平/垂直に保ち、R.クランクケースのオイルポットゲージでオイルレベル量を確認します。



もしオイルが少なければ、オイル注入口より注入します。(オイルは同じ物を使用して下さい。)多い時は、規定量までオイルを抜きます。

- 異音など異常が無いかを確認します。
- 異常が無ければキャブレターのセッティング作業を行います。(別紙参照)

△警告：必ず安全な場所で行う事。

- 調整が終われば30kmから50km程度慣らし運転をし、バルブクリアランスを点検します。
IN : 0.15 mm
EX : 0.15 mm
(別紙参照)

△注意：必ず冷間時に行う事。

- 50kmから100km位まで再度慣らし運転を行います。
- 慣らし運転終了後、異音やブローバイガスなど異常が無いかを確認します。(異常がある場合は、エンジンを分解し、各部を点検する。)
- 必ずオーナーズマニュアルを別途購入し、参照して点検作業を行って下さい。

△注意：再使用出来ないパーツは再使用しない事。

△警告：技術・知識の無い方は作業を行わないで下さい。

クラッチオプションパーツについて

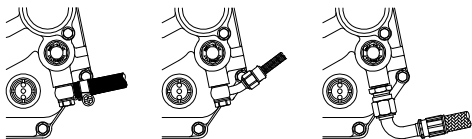
(サーモユニット取り付け)

サーモスタットホールキャップを取り外し、サーモユニットを取り付けます。
サーモユニット取扱説明書をご確認下さい。
サーモユニット単体での使用は出来ません。

(オイルクーラー取り付け)

●サーモユニットを取り付ける場合

1. サーモユニットを取り付けます。
2. オイルプラグボルト2本を取り外し、使用するホースの種類に適合するアダプターを取り付け、ホースを接続します。
サーモユニット取扱説明書をご確認下さい。
オイルクーラーキット取扱説明書及び、アダプター取扱説明書をご確認下さい。

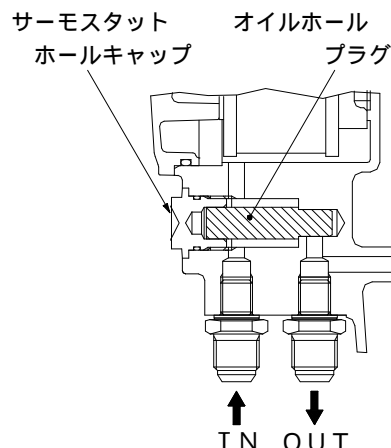
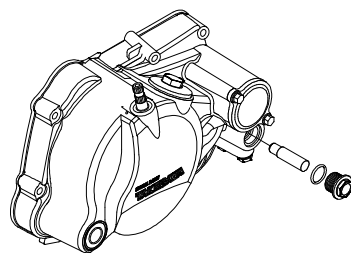


ラバーホース スリムラインホース アレグリホース

⚠ 注意：クラッチカバーにオイルホースを接続しない場合、サーモユニット又は、オイルホールプラグを絶対に取り付けないで下さい。
オイル通路が遮断され、エンジンが破損する可能性があります。

●サーモユニットを取り付けない場合

1. サーモスタットホールキャップを取り外し、付属のオイルホールプラグをオイルホールに差し込みます。
2. サーモスタットホールキャップのOリングにエンジンオイルを塗布し、ホールキャップを指定トルクで締め付けます。
トルク：13 N・m (1.3 kgf・m)
3. オイルプラグボルト2本を取り外し、使用するホースの種類に適合するアダプターを取り付け、ホースを接続します。
オイルクーラーキット取扱説明書及び、アダプター取扱説明書をご確認下さい。



オイルクーラーを取り付けない場合

サーモユニットやオイルホールプラグは絶対に取り付けないで下さい。
又、サーモユニットやオイルホールプラグが取り付けられている場合は、必ず取り外して下さい。

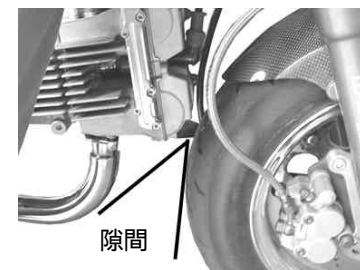
⚠ 注意：サーモユニット又は、オイルホールプラグを取り付けた状態では、オイル通路が遮断され、エンジンが破損する可能性があります。

フロントフォークとタイヤとの関係

- φ 27 正立フロントフォーク
10インチタイヤ使用の場合、フォーク先端いっぱいでもクランプして下さい。
- トップボルトを除くインナーチューブ先端でフォークをクランプします。

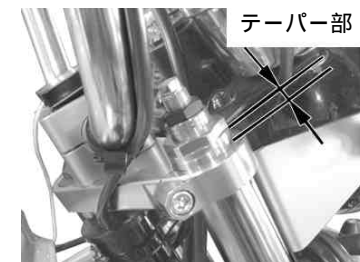


- 使用前に必ずフルボトム時に干渉が無いかを確認します。
- 干渉する場合、ハイトの低いタイヤに変更して下さい。



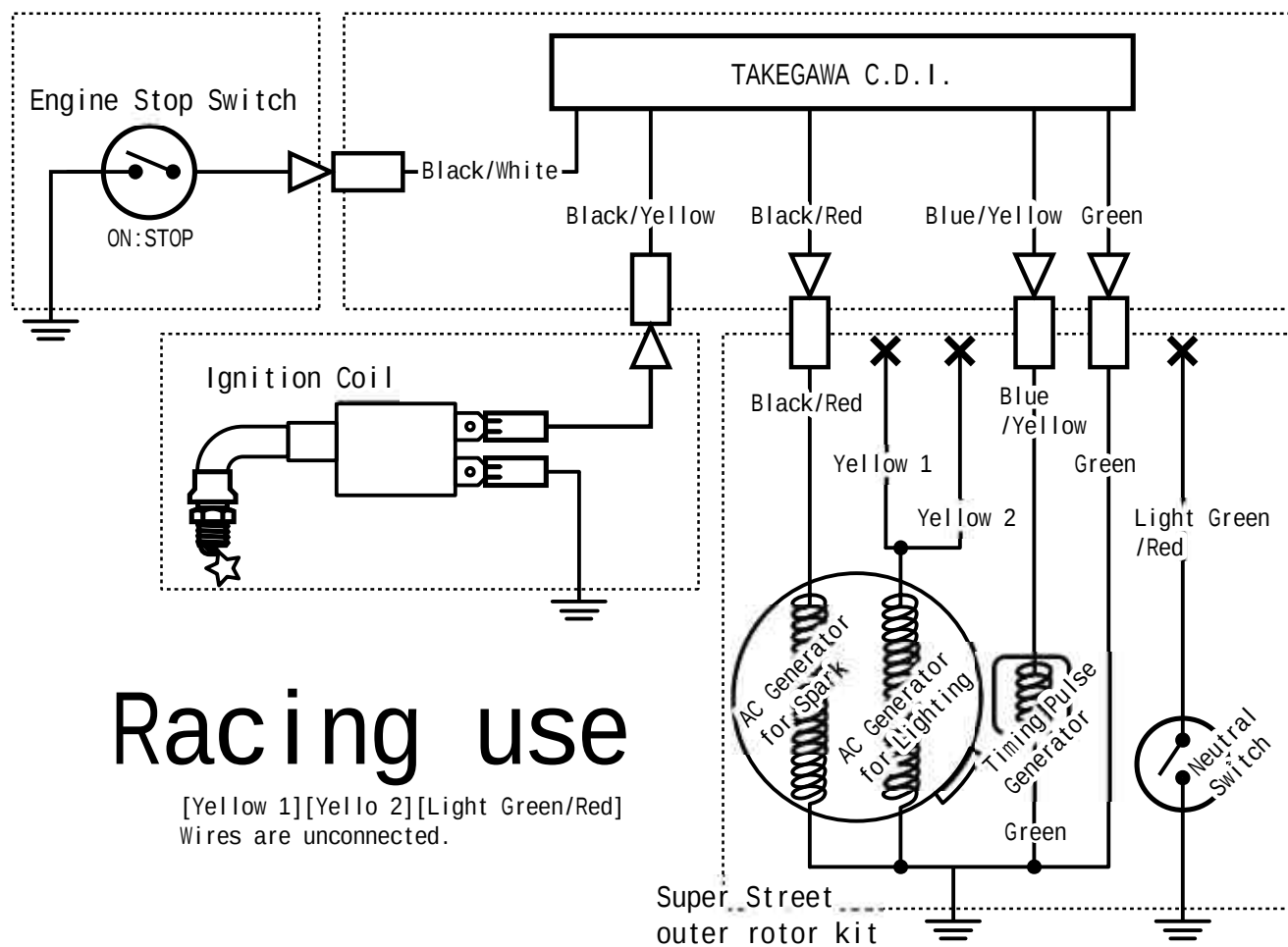
隙間

- φ 30 正立フロントフォーク
○ フォークインナーチューブ先端のテーパ部を避けて、ストレート部の先端でクランプします。
フルボトム時に干渉が無いかを確認してから使用して下さい。



テーパ部

Generator side		Bike side		機能	Function
黄1	Yellow 1	黄	Yellow	灯火用AC出力 (AC電源用)	Lighting AC output (for AC power)
黄2	Yellow 2	白	White	灯火用AC出力 (DC電源用)	Lighting AC output (for DC power)
緑	Green	緑	Green	メインアース (GND)	Main GND
青/黄	Blue/Yellow	青/黄	Blue/Yellow	パルスジェネレーター信号	Pickup pulse
黒/赤	Black/Red	黒/赤	Black/Red	点火用AC出力	Ignition AC output
若葉/赤	Light Green/Red	若葉/赤	Light Green/Red	ニュートラルスイッチコード	Neutral Switch



～ A .C .G 各所の特性と注意点 ～

● 灯火用 A C 電源出力について

ヘッドライトに使う A C 電源出力を優先し、高いレベルで低回転から純正品に近い明るさを実現。

外品の小径ローターでありがちな「中回転域まで回さないとヘッドライトが明るくならない」や「高回転回すと過電圧気味になる」とは異なり、アイドルリングからの電圧の立ち上がりが良く、また高回転においても出力が一定になる特性を実現しました。

モンキー純正品と全く同じではなく、比較すると中回転域で約 9 0 %、高回転域でほぼ 1 0 0 %の明るさです。

A C 電源とは

交流電源。エンジン始動に伴い電圧が発生する電源。電圧や周波数、波形が安定していないので、一般的なテスターでは正確な電圧を測定出来ません。

● ランプ類の指定

指定のワット数を守って頂く必要があります。

ヘッドライトバルブは 3 0 / 3 0 Wもしくは 2 5 / 2 5 Wをご使用下さい。

・モンキーノーマルバルブは 2 5 / 2 5 Wもしくは 3 0 / 3 0 W（年式により異なる）

ブレーキ/テールライトを電球よりも消費電力の少ない L E Dバルブもしくは L E Dテールランプへの交換を推奨します。

・ノーマルバルブは 1 0 / 5 W

・弊社製 L E Dテールバルブ 1 .5 / 0 .5 W（品番：0 5—0 8—0 0 3 8）

制限を超えると A C 電圧とバッテリー充電電流が低下します。

● ランプのワット数とローター出力の関係

トラブルなくご使用頂く為に、下の表をご参照下さい。



表の値はあくまで目安です。バッテリー電圧や消費電流等、関連部品の状態により出力値が変化します。

スーパーストリートアウターローターキット

				2 0 0 0 r p m		3 0 0 0 r p m		6 0 0 0 r p m	
A C消費電量合計	ヘッドライトバルブ	ブレーキ/テールバルブ	ブレーキ	A C出力電圧	D C出力電流	A C出力電圧	D C出力電流	A C出力電圧	D C出力電流
2 5 .5 W	2 5 / 2 5 W	1 .5 / 0 .5 W L E D	O F F	1 1 .5 V	2 0 0 m A	1 2 .5 V	4 0 0 m A	1 2 .7 V	4 2 0 m A
N 3 0 W	2 5 / 2 5 W	1 0 / 5 W	O F F	1 0 .5 V	1 0 0 m A	1 2 .6 V	3 5 0 m A	1 2 .5 V	4 0 0 m A
3 0 .5 W	3 0 / 3 0 W	1 .5 / 0 .5 W L E D	O F F	1 0 .5 V	1 0 0 m A	1 2 .6 V	3 5 0 m A	1 2 .5 V	4 0 0 m A
N 3 5 W	3 0 / 3 0 W	1 0 / 5 W	O F F	9 .7 V	5 0 m A	1 1 .8 V	2 7 0 m A	1 2 .6 V	3 8 0 m A

モンキー純正ローター

N 3 5 W	3 0 / 3 0 W	1 0 / 5 W	O F F	1 0 .0 V	6 0 0 m A	1 2 .8 V	1 1 0 0 m A	1 2 .8 V	1 4 0 0 m A
---------	-------------	-----------	-------	----------	-----------	----------	-------------	----------	-------------

A C消費電量：ヘッドライトとブレーキ/テールライトが消費する電力の合計ワット数。

[N] がノーマルエンジン時のワット数。

A C出力電圧：ヘッドライトの電圧の参考値です。値が小さい=ヘッドライトが暗い

D C出力電流：バッテリー充電電流の参考値です。[D C出力電流]—[D C消費電流] = [バッテリー充電電流]

[バッテリー充電電流] がマイナス値の時は、バッテリーの蓄電量が減ります。

プラス値でも値が微小な場合は蓄電されません。

[D C消費電流] はバッテリー電源を使用する部品の電流消費量です。

テールライトの L E Dカスタムは効果的です。

ブレーキ時の [D C消費電流] が大幅に減少する事で、[バッテリー充電電流] の低下量も少なくなります。本製品は [D C出力電流] がノーマルエンジンより少ないので、とても効果的なカスタムです。

ヘッドライトは 3 0 / 3 0 Wをご使用下さい。カスタム内容により 2 5 / 2 5 Wを推奨。

デジタルメーター等による「[D C消費電流] の増加 = [バッテリー充電電流] の低下」を 2 5 / 2 5 Wを使う事で緩和する事が出来ます。

ヘッドライトに 3 5 Wバルブを使用すると、低回転から十分な電圧を得る事が出来ないばかりか、[バッテリー充電電流] も低下してしまいます。

● バッテリー充電能力

走行中の消費分を補充するレベルの充電能力だけとなりますので、特性と注意点をよく理解して頂き、使用して頂く必要があります。

モンキー純正品はかなり余裕のある充電能力を持っていますが、本製品は走行中の消費分を補充するレベルの充電能力だけとなります。純正品は極めて少ない走行頻度や低回転でブレーキランプとウインカーを長時間点けたままでも問題が起こらないように設計されており、電圧の低いバッテリーを一気に充電する事やカスタムパーツ装着によるDC電源消費量の増大にも高いレベルで対応出来ます。本製品はこの余裕部分がないと考えて下さい。

電圧の低いバッテリーを一気に充電する能力はないので、エンジンを始動してもすぐにバッテリー電圧が上がリません。

電圧の低いバッテリーを走行中の発電での充電は可能ですが、かなりの時間がかかります。

・例えば11.5V程度しかないバッテリーに14V以上の電圧をかけるにはスターター側に高い電圧を維持するだけの充電能力が必要です。純正品と比べこの能力が劣る為に本製品では最初12Vあたりから蓄電量が増えるに従いゆっくり電圧が上がります。数時間走行し最終的に満充電に近づくると純正品同様に14V以上まで上がります。

・安全の為、電圧の低いバッテリーは充電器で充電する事を推奨します。

・充電しても電圧が上がらない場合はバッテリーを新品に交換して下さい。

「DC電源」とは

=直流電源。キーON（エンジン停止状態）バッテリー電源で、エンジン稼動中も比較的電圧が安定しています。

バッテリーの管理について

テスターを用意し、走行前にバッテリーの電圧が12V以上あるかをチェックして下さい。

・別項目[テスターでバッテリーの状態と充電の確認]に方法を記載。

しばらく使わない場合は、バッテリーコネクタを外して保管して下さい。

・保管中も時々電圧をチェックし、必要に応じて充電器で充電して下さい。

電圧が12Vあっても充電容量低下したバッテリーは使用出来ません。

充電容量の低下したバッテリーについて

充電器で充電して電圧が12V以上になった場合でも、充電容量が少ない（電力が蓄電されない）為に使用するとすぐに電圧が下がってしまいます。

新品に近い（購入後の使用時間が少ない）バッテリーでも、数ヶ月間放置すると過放電状態になる可能性があります。

過放電状態が続くとバッテリーの劣化が早まります。

バッテリーへの充電力不足・バッテリー電圧の低下について

バッテリー電源の使用量とエンジン回転数の平均値により、消費量が勝る時、充電量が勝る時の割合が異なります。バッテリーへの充電量が不足しているようであれば下記の事柄を確認・検討して下さい。テスターで灯火用コイルの抵抗値を確認して下さい。

・別項目[テスターでバッテリーの状態と充電の確認]に方法を記載。

バッテリー電源（DC電源）の消費量を減らす対応を検討して下さい。

・カスタムパーツのDC電源の消費量の合計を2.4W（12V200mA）程度までにして下さい。

・テール/ブレーキランプのLED化を推奨。

ヘッドライトバルブをW数を30Wから25W～18Wに下げると若干充電力がアップします。

明るく見せる為に市販品には実際は表記値よりも消費電力の多いバルブがあります。信頼出来るメーカーのバルブをご使用下さい。

ウインカーが点滅せず暗く点いたままの状態は、点滅時よりも消費電力が多くなります。弱ったバッテリーの使用は推奨出来ませんが、弊社製ウインカーリレー（純正互換形状、品番：09—03—0900）を取り付けると純正品よりも低い電圧下でも点滅可能になります。

バッテリーが過度の劣化状態になると回転数により電圧変動が大きくなり、高回転時に過電圧を発生する場合があります。弊社製ミニレギュレーターキット（品番：05—06—0001）をカスタムパーツの配線間に割り込ませる事で取り付けの事で40Vまでの過電圧を12Vに制御し、過電圧からパーツを保護します。

● 点火性能

高い点火エネルギーを発生します。

点火用コイルを純正品の大型1基に対して小径ながら2基とする事で、イグニッションコイル一次側電圧を上げ、特に電圧の下がる高回転時に効果を発揮します。

モンキー純正C.D.I.は使用可能ですが、耐電圧の高い弊社製C.D.I.との組み合わせを推奨致します。（点火発電力アップの為、比較すると寿命低下が考えられます。）

弊社製レプリミッターとの組み合わせはご遠慮下さい。

（リミッター時にC.D.I.内のコンデンサーへの負担が大きいため。）

社外のデジタルC.D.I.（タイミングを予測し、純正C.D.I.よりも上死点前に点火出来る製品）との組み合わせはご遠慮下さい。

（点火タイミングが早くなり過ぎ、エンジントラブルの原因になる可能性がある為。）

社外のアナログC.D.I.についても、点火発電力アップに対応出来ない可能性があります。

（内部仕様が不明のため。）

～ 作 動 確 認 ～

下記はあくまで簡易的な作動確認方法で、車体メーカー発行のサービスマニュアルには更に詳しい点検方法が記載されています。
合わせて本書の「各所の特性と注意点」もご参照下さい。

● バッテリーの状態確認

メインスイッチをONにし（エンジンを停止状態）、ブレーキランプとウインカーを同時に点け、ウインカーの作動状況を確認する。

→正常に点滅する。

...次項目「点火の確認」に進む。

→ウインカーがかろうじて点滅する。

...蓄電量が不足。バッテリーの充電を推奨。

→ウインカーが点滅せず暗く点灯したままになる。

...バッテリー電圧が10.5V以下。バッテリーの充電が必要。

→両方とも点灯しない。

...使用不可。充電しても改善しない可能性が高い。新品バッテリーへの交換を推奨。

ウインカーが点滅せず点いたままの状態は、点滅時よりも消費電力が多くなります。弱ったバッテリーの使用は推奨出来ませんが、弊社製ウインカーリレー（純正互換形状、品番：09-03-0900）を取り付けると純正品よりも低い電圧下でも点滅可能になります。

● 点火の確認

スパークプラグをシリンダーヘッドに残したまま、良品のプラグをプラグキャップに取り付け、エンジンにアースさせる。

メインスイッチをONにし、キックスターターでエンジンをクランキングし、プラグ先端部のスパークを確認する。

→スパークを確認出来れば正常。

...次項目「発電の確認」に進む。

● 発電の確認

走行可能な状態に車体を仕上げ、メインスイッチがOFFのままキックスターターでエンジンをクランキングし、ヘッドライトと尾灯の点灯を確認する。

点灯はとても暗いので、日陰で作業を行って下さい。

→点灯（暗く）すると正常。

メインスイッチをONにし、エンジンを始動する。ヘッドライトの照明を壁に向け、明るさの変化を確認する。

アイドリングが不安定でエンストし易い場合は、アイドリング回転数を上げて下さい。

→正常であればノーマルエンジン時と同様に3000rpm以上辺りから明るさが安定します。

→暗くなった感じ。

...車両のAC電源消費物以上の電力を消費する部品への交換や追加装着をしていませんか？

AC消費量を増やすとバッテリー充電力も低下します。

（ヘッドライト：25/25W又は30/30W、尾灯：5W）

充電については、簡易的には確認出来ません。

● 吹け上がりの確認

スムーズにエンジンが吹け上がるかを確認する。

空吹かしでは、ノーマルフライホイール時よりも鋭く吹け上がりますので、オーバーレブにご注意下さい。

→吹け上がらない。

...社外のC.D.I.を装着していませんか？

点火タイミングが不適切な場合、中～高回転までエンジン回転が上がらなくなる可能性があります。劣化等により、本来の性能が発揮出来ていないC.D.I.でも同様に、点火タイミングが不適切になる場合があります。

● テスター（電圧測定）でバッテリーの状態と充電の確認

メインスイッチをOFF（エンジンを停止状態）のままバッテリー電圧を計る。

→正常値：12V前後。 走行直後は13V～14V。

...に進む。

→11.5V以下。

...バッテリーを充電器で充電して下さい。

メインスイッチをONにし、バッテリー電圧を測りながらエンジンを始動する。

エンジン未稼動中はバッテリー電源消費により、電圧は徐々に下がります。

→始動に伴い電圧が上がると正常。 蓄電量の状況により上がり幅は異なります。

（蓄電量が少ない時は6000rpm時に+0.5V程度）

→始動しても電圧がほとんど変化しない。電圧がどんどん下がっていく。

...バッテリー電源の消費量が多い部品への交換や追加装着を行っていませんか？

消費量が許容範囲よりも多いとバッテリー電圧が上がリません。

問題が解決しない場合、次項目の「ステーターの点検（灯火用コイル）」を行って下さい。

● テスター（抵抗値測定）でステーターの点検

ステーターの6Pカブラとギボシ（黒/赤コード）の接続を外す。

黒/赤コードと緑コードの間の抵抗値を測定する。

点火電力用コイルの点検です。

→正常値：530～630Ω（20℃）

6Pコネクター内の青/黄コードと緑コードの間の抵抗値を測定する。

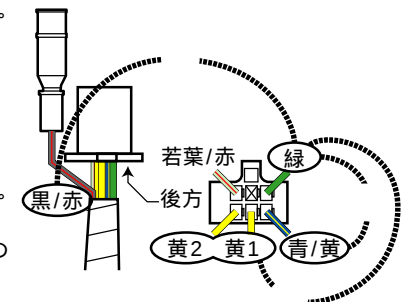
点火タイミング用コイル（パルスジェネレーター）の点検です。

→正常値：200～300Ω（20℃）

黄1コードと緑コード間、黄2コードと緑コード間それぞれの抵抗値を測定する。

灯火用コイルの点検です。

→正常値：0.9～1.5Ω（20℃）



キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
・爆発音が重い感じで断続する。 ・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。 ・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。 ・クリーナーを外すと調子が良くなる。 ・排気ガスが濃い。(黒い) ・プラグが黒くくすぶる。	・エンジンがオーバーヒート気味になる。 ・チョークを作動すると、調子が良くなる。 ・加速が悪い。(息付きをおこす) ・回転変動があり、力がない。 ・プラグが白く焼ける。

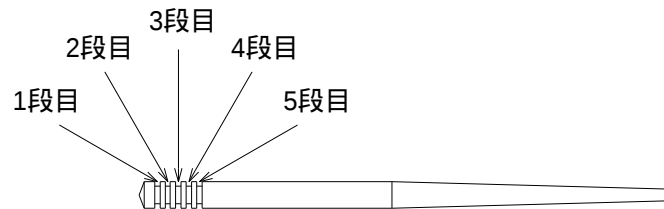
キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。
エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

○ジェットニードル (スロットル開度 1 / 4—3 / 4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がりが高く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目になるにつれ混合気は濃くなります。



○メインジェット (スロットル開度 3 / 4—4 / 4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。

仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

○パイロットジェット (調整前にまずエアスクリュウを調整して下さい。)

- ・エアスクリュウの戻し量 3.0 回転以上の場合は、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリュウが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
パイロットジェットはアイドリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリュウの再調整が必要です。

○エアスクリュウ

エアスクリュウはスロー系の空気流量を調整します。(アイドリング時)

- ・エアスクリュウを右に回す→混合気が濃くなる。
- ・エアスクリュウを左に回す→混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5 回転)に合わせ、左右に 1 / 4—1 / 2 回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリュウで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリュウで最も回転数が高くなる位置に調整します。

●気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。
この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後 1 ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

～点検と調整～

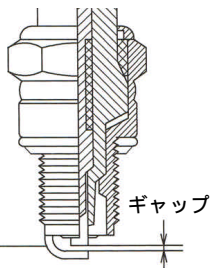
注意 トルクレンチは必ず用意し、規定トルクを守り作業を行って下さい。

警告 点検と調整は基本的な技能や知識を持った人を対象としておりますので、技術、知識の無い方は作業を行わないで下さい。

●スパークプラグ



- プラグキャップを外し、プラグレンチを用いてスパークプラグを取り外す。
- ワイヤーブラシ又はプラグクリーナーを使用してプラグ電極部の蓄積物を取り除く。
- シクネスゲージでプラグギャップの隙間を点検し、規定値以外の場合は、側方の電極を曲げてギャップを調整する。



ギャップ
標準：0.7～0.8mm

- 側方電極の磨耗、腐食、焼損、ガイシ部の損傷など点検し、必要があれば交換する。
- 走行状態、使用用途に対して、適正な熱価のスパークプラグかを点検し、プラグが焼けすぎている様であれば、熱価の1段高いスーパープラグに交換する。

標準

・NGK：ER8EH

熱価の高いプラグ（冷え型）

・NGK：ER9EH

- スパークプラグのネジ部に少量のアルミスペシャルを塗布し締め付け、プラグキャップを取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

●オイル交換

- エンジンの暖機運転を数分間行う。
- ドレンボルトの下にオイル受けを用意し、エンジンが暖かい間にオイルを抜く。



- ドレンボルトを取り付け規定トルクで締め付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 19.5 \sim 24.5 \text{ N} \cdot \text{m} \\ (2.0 \sim 2.5 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

- オイル吸入口のキャップを取り外し、エンジンオイルを750cc注入する。



- エンジンオイルを規定量注入する。

推奨オイル

SAE 10W-40 20W-50

API分類SF級のエンジンオイル

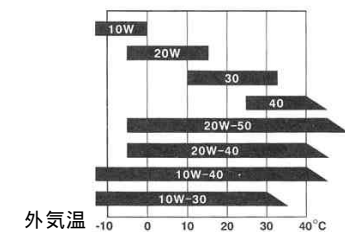
オイル量

オイル交換時：750cc

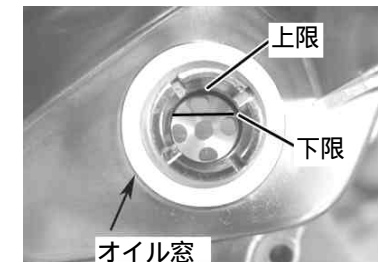
オーバーホール時：800cc

- エンジンオイルの粘度は、図を参考に使用する地域、外気温に適した粘度のオイルを使用する事。

気温と粘度との関係



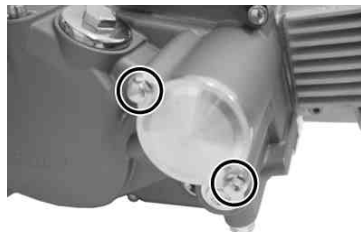
- オイル吸入口のキャップを取り付ける。
- エンジンの暖機運転を数分間行う。
- 一旦エンジンを止め、数分待ち車両を水平/垂直に保ち、R.クランクケースのオイルポットゲージでオイルレベル量を確認する。



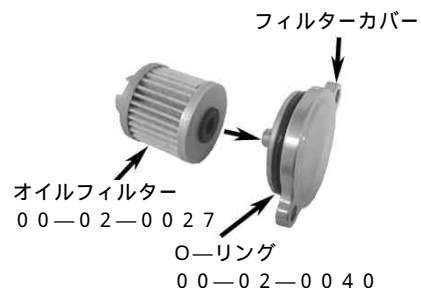
もしオイルが少なければ、オイル注入口より注入する。（オイルは同じ物を使用する事。）
多い時は、規定量までオイルを抜く。

● オイルフィルター交換

- オイルフィルターカバーのボルト2本を取り外し、オイルフィルターカバー、オイルフィルター、オイルフィルタースプリングを取り外す。



- オイルフィルターカバーのOリングを点検し、必要があれば交換する。
- 新品のオイルフィルターをフィルターカバーに取り付ける。



- オイルフィルタースプリングを、R. クランクケースカバー内の突起部にセットする。
- オイルフィルターカバーのOリングに少量のエンジンオイルを塗布し、オイルフィルター、オイルフィルターカバーを取り付け、2本のボルトを規定トルクで締め付ける。

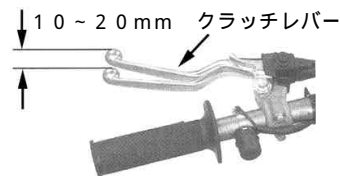
△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

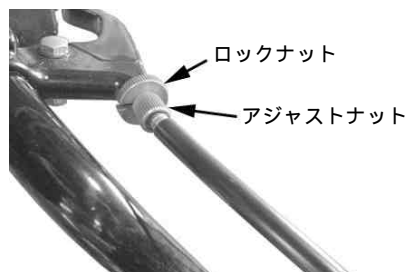


● クラッチケーブルの調整

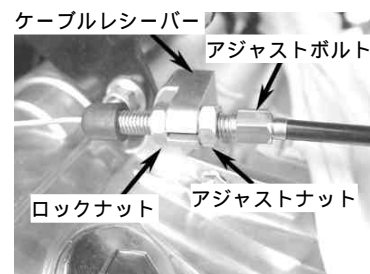
- クラッチレバー先端での遊びを点検する。



- クラッチレバーのアジャストナットを回して、クラッチレバーの遊びを調整する。



- クラッチレバー部のアジャスター調整代が少なくなってきた場合は、レシーバー側のアジャストナットを回して調整する。



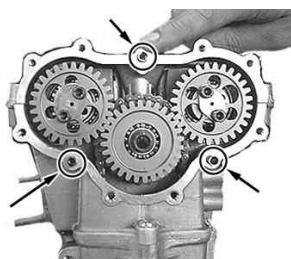
- クラッチレバーのロックナット、クラッチケーブルのロックナットを締め付ける。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

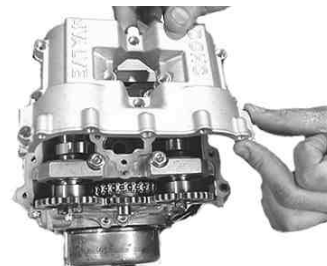
$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

● バルブクリアランスの調整

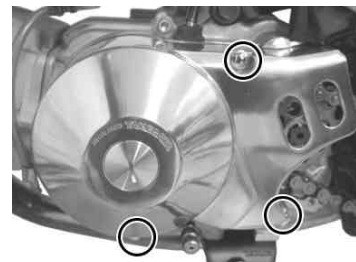
- シリンダーヘッドL. サイドカバーの取り付けスクリューを外し、L. サイドカバーを取り外し、ノックピンを取り外す。



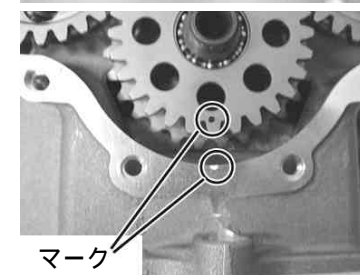
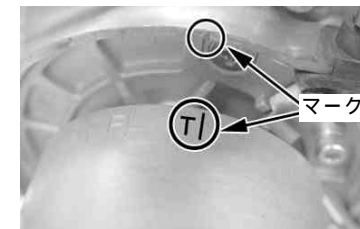
- シリンダーヘッドカバーのスクリーをを外し、シリンダーヘッドカバーを取り外す。



- ジェネレーターカバーのスクリーを外し、ジェネレーターカバーを取り外す。



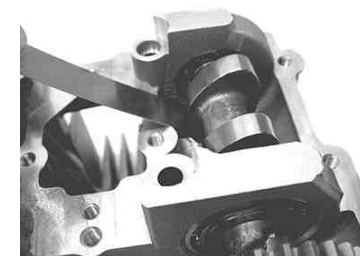
- フライホイールを回し、圧縮上死点に合わせる。



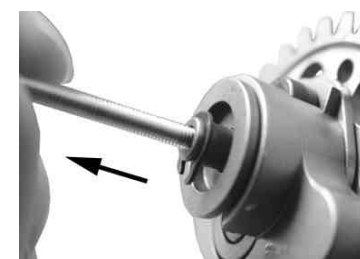
- シックネスゲージでバルブクリアランスを確認する。

IN : $0.15 \pm 0.02 \text{ mm}$ (冷間時)

EX : $0.15 \pm 0.02 \text{ mm}$ (冷間時)



- EX側はデコンプ装置が解除されるようスライドシャフトを手前に引いた状態で調整する。



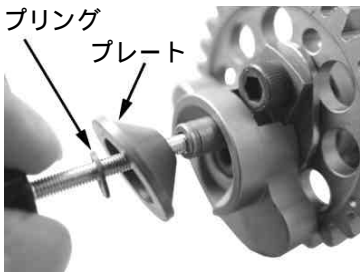
シックネスゲージにゴミ等付着が無い事。

バルブクリアランスを調整する場合

- カムギア、カムシャフトを取り外し、バルブリフタ、シムを取り外す。
- エキゾースト側はツマミネジをエキゾーストカムシャフトスライドシャフトに取り付けスナップリング、プレートを取り外す。

スナップリング

プレート

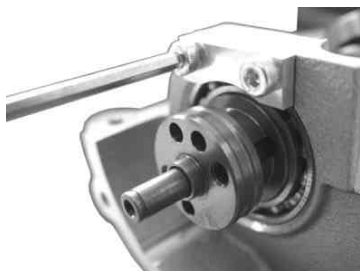


- ウエイト、スプロケットワッシャ、カムギアを外す。

ウエイト



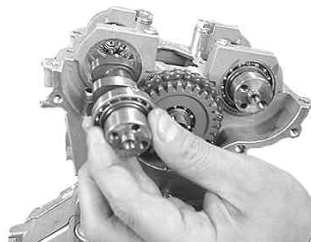
- スクリーウ2本を外し、カムストッパーを取り外し、カムシャフトを取り外す。



- インテーク側はカムギアを外し、カムシャフトを取り外す。



- ・バルブリフタを取り外すには、バルブたこ、又はバルブラッパを使用して取り外す。
- ・シムが外れにくい時は、ピンセットまたは、磁石を使用して取り外す。
- ・取り外したリフタとシムは取り付け位置別に区別して保管する事。
- ・バルブリフタは、必ず元の位置に取り付ける事。



- 新しいシムの寸法を求める。
- ・シムに付着したオイルを拭き取り、マイクロメーターでシムの厚さを測定し、記録する。

- A : 求めるシムの厚さ
- B : 測定したバルブクリアランス
- C : 測定したバルブクリアランス
- D : 取り外したシムの厚さ

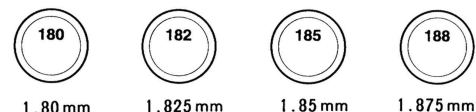
$$A = (B - C) + D$$



- シムは1.20mmから0.025mm間隔で2.9mmまで設定されている。

シムは、ホンダ純正シムが使用出来ますので、ホンダ純正シムを使用しても問題ありません。
ホンダ純正品番は、別紙を参考にして下さい。

- *新しいシムは、必ずマイクロメーターを使用して正確に測定し、確認する事。



ホンダ純正シム

バルブリフタ取り付け

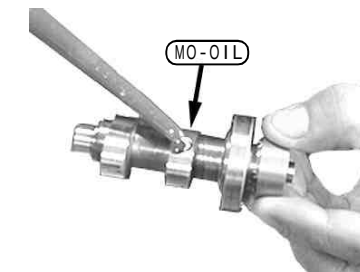
- 新しいシムを、バルブスプリングリテーナーに取り付ける。
- バルブリフターをきれいにオイルを吹いて、バルブリフタのシム取り付け部をエアブローし清掃する。
- バルブリフタの摺動面に二硫化モリブデン溶液を塗布し、取り付けする。

△注意：リフタは必ず元の位置に取り付ける事。

- カムシャフトを取り付け、シックネスゲージでバルブクリアランスを確認する。
例(0.15が入り、0.18が入らなければO.K.)

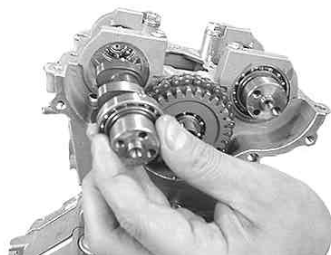


- カムシャフトのカム山部にエンジンオイル又は二酸化モリブデン溶液を塗布する。



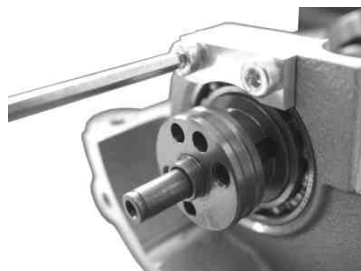
○カムシャフトをシリンダーヘッドに取り付ける。

△注意：I N側、E X側を間違わない様に取り付ける事。



○エキゾーストカムシャフト側にカムストッパー、ソケットキャップスクリュー4×16を取り付け締め付ける。

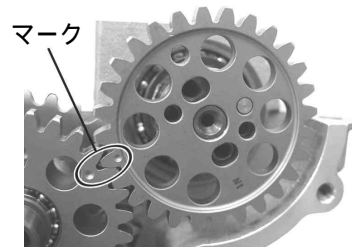
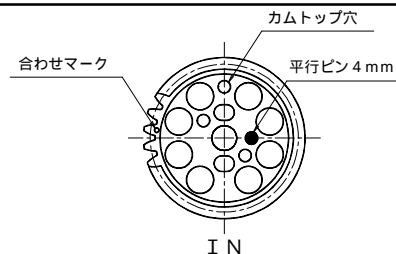
△注意：必ず規定トルクを守る事。
 $T = 4 \text{ N} \cdot \text{m} (0.4 \text{ kgf} \cdot \text{m})$



○カムギアをセンターカムギアの合わせマークと合わせ、カムギアのカムトップ穴とカムシャフトのカム山のトップ部を合わせ、指定の位置に平行ピンを取り付ける。

I N側

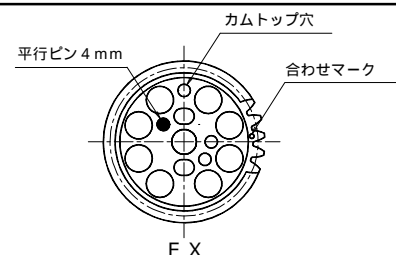
△注意：合わせマークを必ず合わせる事。



△注意：平行ピンの位置を間違わない事。

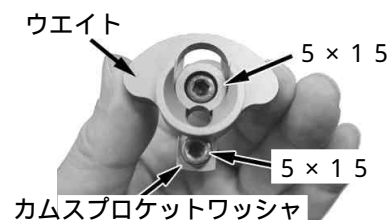
E X側

△注意：合わせマークを必ず合わせる事。

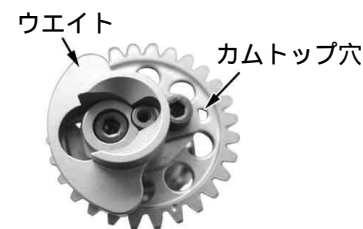


△注意：平行ピンの位置を間違わない事。

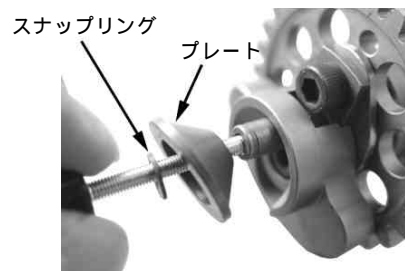
○ウエイトにカムスプロケットワッシャを通して、ソケットキャップスクリュー5×15（黒色）を上下の穴にセットする。



○ウエイトがカムトップ穴と逆方向を向く様に取り付ける。

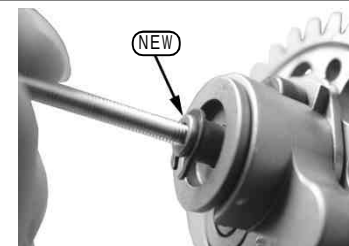


○キット内のツマミネジにスナップリング6mm、プレートを通してエキゾーストカムシャフト内のスライドシャフトを引き出す。

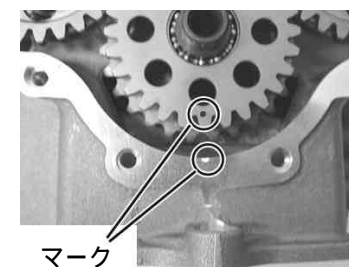
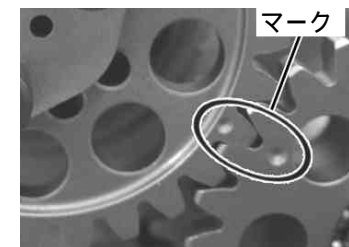


○スライドシャフトの溝部にスナップリングを取り付ける。

△注意：スナップリングは必要以上に広げない事。
 △警告：スナップリングは必ず新品を使用し再使用しない事。

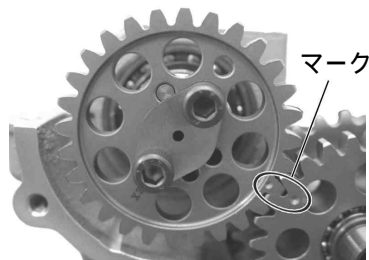


○カムギアの合わせマークが合っているか確認する。



I N側

- カムギアにカムシャフトワッシャ、キャップスクリュー 5 × 1 2 を取り付けクランクを固定し、取り付ける。



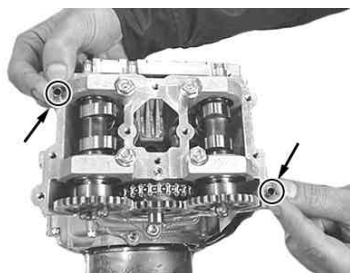
- クランクを固定し、I N / E X 共カムギアを固定しているソケットキャップスクリューを規定トルクで締め付ける。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

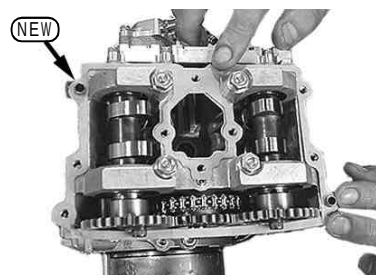
$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- シリンダーヘッドのヘッドカバー取り付け面をきれいに脱脂し、ロックピンを取り付ける。



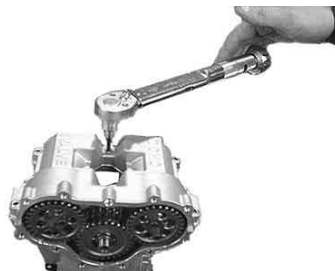
- 新品のシリンダーヘッドカバーガasketを取り付ける。



- シリンダーヘッドカバーを取り付け、キャップスクリューネジ部に少量のアルミスベシャルを塗布し、内側のスクリューから対角に 2 ~ 3 回に分け、規定トルクまで締め付ける。

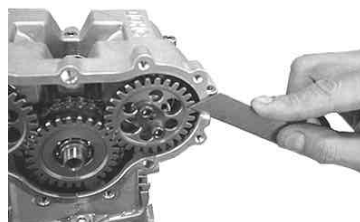
△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 6 \text{ N} \cdot \text{m} (0.6 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

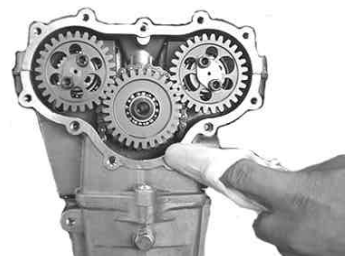


- シリンダーヘッドサイドからはみ出したガasketをカッターナイフ等で切り取り、平らにする。

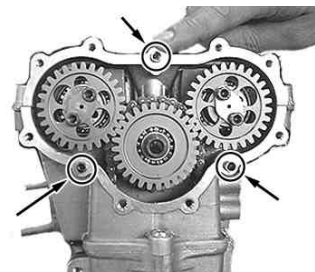
△ 注意：キズを付けない事。



- サイドカバー取り付け面をきれいに脱脂する。



- サイドカバー取り付け面ロック穴にロックピンを取り付ける。



- シリンダーヘッドL .サイドカバーをシリンダーヘッドにキャップスクリュー 5 × 2 2 9 本、5 × 1 5 2 本を用いて取り付ける。(図参考) スクリューネジ部に少量のアルミスベシャルを塗布する。

△ 注意：ネジの取り付け位置を間違わない事。



- ソケットキャップスクリューをそれぞれ対角に 2 ~ 3 回に分け、規定トルクまで締め付ける。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 6 \text{ N} \cdot \text{m} (0.6 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$



- 取り外したジェネレーターカバーを取り付け、規定トルクで締め付ける。

△ 注意：必ず規定トルクを守る事。

$$T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$$

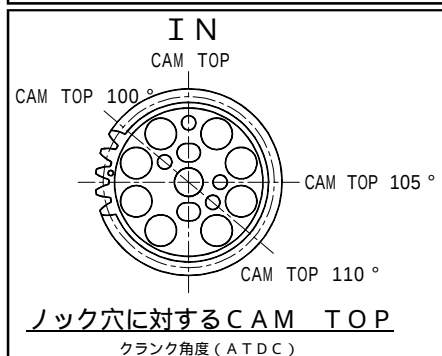
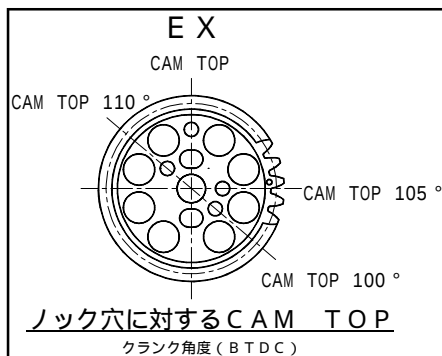


バルブタイミングの変更

○カムギア ノックピン位置

カムギアのノックピン位置を変更する事で、バルブタイミングを変更する事が出来るようになる。

- ピン位置でのカムトップ（中心角）は下図のようになるが、あくまでも目安であって、正確な角度はタイミングプロトラクターとダイヤルゲージを使用して測定する事。



注意

- ピン位置を指定の位置から変更した場合、本来の性能が発揮されない場合がある。変更する場合は、指定の位置を基本とし、調整する様心掛ける事。
- バルブタイミングをよく理解されていない方は、指定の位置から変更しない事。

△注意

- 車両に取り付けて調整する場合、エキゾースト側のカムシャフトを取り外した場合、バルブリフトが抜け落ちる場合がある。抜け落ちた時は、ヘッドカバーを外し、シム、バルブリフトを必ず元の位置に取り付ける事。

○バルブタイミング調整

- スパークプラグを取り外し、プラグホールからダイヤルゲージをセットし、ピストン上死点を合わせる。
- クランクシャフトにタイミングプロトラクターを取り付け、プロトラクター目盛を ' 0 ' に合わせナットを締め付ける。
再度上死点を確認する。
(ズレている場合は、ポインターで調整する。)
タイミングプロトラクター：00 - 01 - 0062

- シリンダーヘッドバルブリフトにダイヤルゲージを垂直になる様、マグネットベーススタンドを使用しセットする。
この時、ダイヤルゲージを押した状態でセットし、目盛を ' 0 ' に合わせる。
(カムシャフトにダイヤルゲージロッドが干渉しない様、専用ロッドを使用する事。)
- クランクシャフトを正回転させ、バルブの開閉及びカムトップの角度を読み取る。

バルブ開閉の求め方

クランクシャフトを正回転させ、ダイヤルゲージの目盛でバルブ1mmリフトした時のクランクシャフトの目盛が開、そのままクランクシャフトを正回転させ再びダイヤルゲージの目盛が1mmの時が開。

カムトップの求め方

クランクシャフトを正回転させ、バルブリフトにセットしたダイヤルゲージの目盛が最大時のタイミングプロトラクター（分度器）の目盛がカムトップのクランク角度となる。

VM26キャブレター

品番	商品名	
00-03-0151	パイロットジェット	10
00-03-0152	パイロットジェット	12.5
00-03-0153	パイロットジェット	15
00-03-0154	パイロットジェット	17.5
00-03-0155	パイロットジェット	20
00-03-0156	パイロットジェット	22.5
00-03-0157	パイロットジェット	25
00-03-0158	パイロットジェット	27.5
00-03-0159	パイロットジェット	30



03-03-0321

品番	商品名	
00-03-0060	メインジェット	100
00-03-0061	メインジェット	105
00-03-0062	メインジェット	110
00-03-0063	メインジェット	115
00-03-0064	メインジェット	120
00-03-0065	メインジェット	125
00-03-0066	メインジェット	130
00-03-0067	メインジェット	135
00-03-0068	メインジェット	140
00-03-0069	メインジェット	145
00-03-0070	メインジェット	150
00-03-0071	メインジェット	155
00-03-0072	メインジェット	160
00-03-0073	メインジェット	165
00-03-0074	メインジェット	170
00-03-0075	メインジェット	175
00-03-0076	メインジェット	180
00-03-0077	メインジェット	185
00-03-0078	メインジェット	190
00-03-0079	メインジェット	195
00-03-0080	メインジェット	200
00-03-0081	メインジェット	210
00-03-0082	メインジェット	220
00-03-0083	メインジェット	230
00-03-0084	メインジェット	240
00-03-0085	メインジェット	250
00-03-0086	メインジェット	260

PE28キャブレター

品番	商品名	
00-03-0137	スロージェット	35
00-03-0138	スロージェット	38
00-03-0139	スロージェット	40
00-03-0140	スロージェット	42
00-03-0141	スロージェット	45
00-03-0142	スロージェット	48
00-03-0143	スロージェット	50
00-03-0144	スロージェット	52
00-03-0145	スロージェット	55
00-03-0146	スロージェット	58
00-03-0147	スロージェット	60
00-03-0148	スロージェット	62
00-03-0149	スロージェット	65
00-03-0150	スロージェット	70

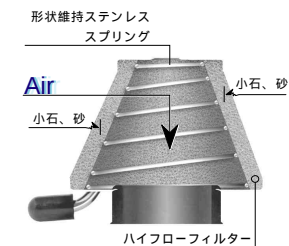


03-03-027

品番	商品名	
00-03-0130	メインジェット	82
00-03-0131	メインジェット	85
00-03-0132	メインジェット	88
00-03-0133	メインジェット	90
00-03-0134	メインジェット	92
00-03-0135	メインジェット	95
00-03-0136	メインジェット	98
00-03-0090	メインジェット	100
00-03-0091	メインジェット	102
00-03-0092	メインジェット	105
00-03-0093	メインジェット	108
00-03-0094	メインジェット	110
00-03-0095	メインジェット	112
00-03-0096	メインジェット	115
00-03-0097	メインジェット	118
00-03-0098	メインジェット	120
00-03-0099	メインジェット	122
00-03-0100	メインジェット	125
00-03-0101	メインジェット	128
00-03-0102	メインジェット	130
00-03-0103	メインジェット	132
00-03-0104	メインジェット	135
00-03-0105	メインジェット	138
00-03-0106	メインジェット	140

品番	商品名	
00-03-0107	メインジェット	142
00-03-0108	メインジェット	145
00-03-0109	メインジェット	148
00-03-0110	メインジェット	150
00-03-0111	メインジェット	152
00-03-0112	メインジェット	155
00-03-0113	メインジェット	158
00-03-0114	メインジェット	160
00-03-0115	メインジェット	162
00-03-0116	メインジェット	165
00-03-0117	メインジェット	168
00-03-0118	メインジェット	170
00-03-0119	メインジェット	172
00-03-0120	メインジェット	175
00-03-0121	メインジェット	178
00-03-0122	メインジェット	180
00-03-0202	メインジェット	182
00-03-0123	メインジェット	185
00-03-0124	メインジェット	188
00-03-0125	メインジェット	190
00-03-0126	メインジェット	192
00-03-0127	メインジェット	195
00-03-0128	メインジェット	198
00-03-0129	メインジェット	200

ハイフローフィルター



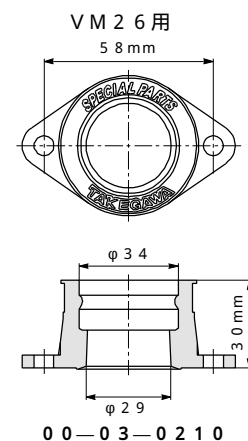
03-01-1064	ミクニVM26用
03-01-1094	ケイヒンPE28用

フューエルコックASSY.

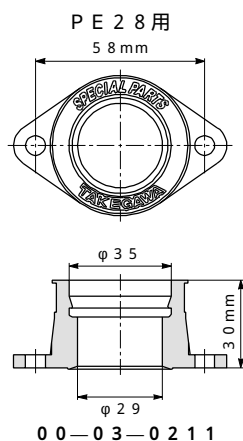


03-03-001

インシュレーター



00-03-0210



00-03-0211

インポリュートスロットルセット



アウター長 710mm
 09-02-0230 (ブラックアルマイト)
 09-02-0232 (ガンメタルアルマイト)
 アウター長 810mm
 09-02-0231 (ブラックアルマイト)
 09-02-0233 (ガンメタルアルマイト)

スタンダードハイスロットルセット



09-02-0222 (アウター長710mm)
 09-02-0221 (アウター長810mm)

90ベントハイスロットルセット



09-02-021 (アウター長700mm)

詳しくは、弊社パーツカタログ又は、ホームページをご覧ください。
 URL <http://www.takegawa.co.jp>

Racing C.D.I. マグネットキット

05-02-0512



- 低回転で点火する為、始動性が非常に良い。
(キックスターターの始動性が非常に良い。)
- 点火時期を24°の範囲で調整が出来ます。
- C.D.I. ユニット内蔵の一体型イグニッションコイル。
- 点火コイルを保護するフルカバーのステーターコイル。
- 軽量化 ローターφ58(Rタイプ): 336g
ステーター(コード含む): 383g
イグニッションコイル(コード含む): 370g
- 高性能の証 "ROSSA" (赤)
充電機能はございません。

●チタンリテーナー&バルブスプリングセット

01-12-0108



- チタン合金リテーナー採用。
スチール製に比べ約30%軽量を実現。
- より高回転域でのバルブ追従性を向上させた新設計バルブスプリング。

●オプションカムシャフト

	D10/10	01-08-0150	オプション
	D15/15	01-08-0151	オプション
	D25/30	01-08-0152	
	D25/25	01-08-0153	オプション
	D30/30	01-08-0154	オプション

キックスターターアーム

(スチール鍛造)

(アルミ鍛造)



02-08-0052



09-10-006

(バックステップ取り付け不可)

クラッチレバーASSY.



02-01-028 (ブラック)

02-01-0282 (シルバー)

クイックレバーASSY.



02-01-0601

スチール製ドライブsprocket



02-05-01 (12Tスタンダード)

02-05-02 (13Tスタンダード)

02-05-03 (14Tスタンダード)



02-05-041 (15Tレーシング)

02-05-051 (16Tレーシング)

アルミ製ドリブンスprocket



02-07-0641 (41T)

02-07-0642 (42T)

02-07-0643 (43T)

02-07-0011 (25T)

02-07-0012 (28T)

02-07-0013 (30T)

02-07-0014 (33T)

スチール製ドリブンスprocket



02-07-0007 (23T)

02-07-0008 (25T)

02-07-0009 (28T)

02-07-0010 (23T)

減速比表 (ファイナル)

ドライブ \ ドリブン	23T	24T	25T	26T	27T	28T	29T	30T	31T	32T	33T	34T	35T	36T
12T	1.91	2.00	2.08	2.17	2.25	2.33	2.42	2.50	2.58	2.67	2.75	2.83	2.92	3.00
13T	1.76	1.84	1.92	2.00	2.08	2.15	2.23	2.31	2.38	2.46	2.54	2.62	2.69	2.77
14T	1.64	1.71	1.79	1.86	1.93	2.00	2.07	2.14	2.21	2.29	2.36	2.43	2.50	2.57
15T	1.53	1.60	1.67	1.73	1.80	1.87	1.93	2.00	2.07	2.13	2.20	2.27	2.33	2.40
16T	1.43	1.50	1.56	1.62	1.68	1.75	1.81	1.87	1.93	2.00	2.06	2.12	2.18	2.25

詳しくは、弊社パーツカタログ又は、ホームページをご覧下さい。

URL <http://www.takegawa.co.jp>

コンパクトクーラー

コンパクトクーラーはクーラー本体を従来のクーラー本体より、更にコンパクトにした設計を採用し、モンキー・ゴリラ等のミニバイクに最適です。
オイル通路はスタンダードタイプ、フィンはコルゲートルーパーフィンを採用しました。このクーラー本体はオイルクーラープレート、ガードが標準
装備されています。又、ステー取り付け部がオイルクーラープレートと一体になっている為、プレートをそのままにし、クーラー本体を反転させる
ことで、オイル取り出し口の位置を上下逆にすることも可能です。



3—Fin 4—Line AW
00—07—0055



4—Fin 5—Line AW
00—07—0008

オイルクーラー		コンパクトクーラー	
取り付け位置 取り出し位置		 取り付け場所：ステアリングシステム	
		3フィン 4 オイルライン	4フィン 5 オイルライン
 クラッチカバー	ラバーホース	07—07—0125	07—07—0126
	スリムラインホース	07—07—0123	07—07—0124
	アレグリブレードホース		

サーモスタット

湿式クラッチカバー専用



02—01—5052

形状記憶合金スプリングを使用することにより、温度変化に対する反応が極めて早いです。
万が一オイルクーラーが詰まり、油圧が上昇した場合でもバイアススプリングによりリリーフ通路を確保。
サーモユニットは油温が低い状態ではバルブが閉じオイルクーラーには流れず、バイパス通路を経由してフィル
ターに戻ります。約70℃以上でバルブが開いてオイルクーラーに流れる為、オーバーヒートを防止し、油
温を一定に保つことが出来ます。

詳しくは、弊社パーツカタログ又は、ホームページをご覧ください。
URL <http://www.takegawa.co.jp>

オイルキャッチタンク

(サイドカバータイプ)



09-04-032

タンク容量：550cc

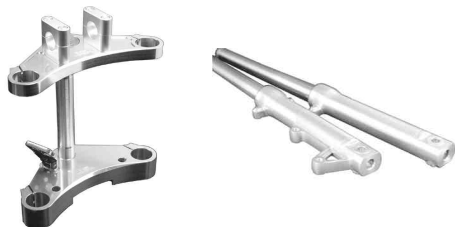
フロントフォーク



06-01-0732

φ30正立フォークセット(ディスクブレーキ付)
(10インチ専用)

インナーチューブ径30mmのオリジナルフロントフォークは、フリーバルブタイプの減衰力発生機構により安定性を向上させ、リバウンド時のショックを低減させます。



06-02-0015

トップブリッジ&ステム

06-01-0723

L/Rフロントフォークセット

レーシングマフラー(10R)



04-01-0029

徹底した出力特性の向上を追い求めた
DOHC専用のレーシングマフラー。
エンジン性能を十分引き出せます。
(オールSUS製)レース専用

リアフォーク



06-03-0116 アルミスイングアーム(12cmロング)

06-03-0114 アルミスイングアーム(16cmロング)

06-03-0115 アルミスイングアーム(16cmロング)スタビ付

高剛性を実現する独自の多角断面形状と素材厚み等のバランスによりスイングアームに求められる剛性と軽量化を両立し、精巧な「曲げ加工」と「バフ仕上げ」は他にない存在感を示します。

詳しくは、弊社パーツカタログ又は、ホームページをご覧ください。
URL <http://www.takegawa.co.jp>